

令和5年度 授業改善推進プラン (小学校学級担任用)

福生第三小学校 第2学年1組 担任 ○○ ○○

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	5 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	96.2%	92.1%
		25 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	92.3%	83.5%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	96.2%	91.7%
	目標の達成	10 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	53.8%	58.3%
		15 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	96.2%	89.1%
	他者との協働	56 わたしは、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。	70.8%	72.2%
	学力と関係が深い質問	3 本や新聞を読んでいる。	70.8%	68.1%
		19 わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。	88.5%	86.4%
20 学習をはじめたら、他のことに気をとられないで、集中している。		84.0%	90.2%	
領域名		学力調査の分析 ○成果 ▲課題		
国語	言葉・情報・言語文化	○全国平均正答率を1.5ポイント上回り、(漢字の読み 白いうさぎ) 設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を7.4ポイント下回り、(ひらがな長音を選ぶ) 設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を6.4ポイント下回り、(放送中の説明と合う内容を選ぶ) 設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を11.0ポイント下回り、(文章中の説明に沿って空欄に合う内容を書く) 設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を12.9ポイント下回り、(場面の様子を読み取って抜き出す) 設問に課題がある。		
算数	数と計算	○全国平均正答率を1.1ポイント上回り、(1位数+1位数の計算をする 繰り上がりあり) 設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を26.6ポイント下回り、(魚の絵の後ろから2匹を○で囲む) 設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を1.8ポイント下回り、(転がりにくい立体を選ぶ) 設問に課題がある。		
	測定	○全国平均正答率を0.1ポイント上回り、(方眼をもとに一番長いものを選ぶ) 設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を16.8ポイント下回り、(指示された時刻を指している時計を選ぶ 4時55分) 設問に課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を2.2ポイント下回り、(絵グラフにあるものの個数を答える) 設問に課題がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>「自分の力をできるだけ伸ばしたい」「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」の項目で全国平均に比べ、4.5ポイント、7.1ポイント上回っていることから、やりとげる喜びを実感している児童が多いと考えられる。</p> <p>国語においては、書くこと、読むことの設問において全国より11ポイント以上下回る数値が見られる。全体として、問われていることを正確に捉えたり、読むことについて抵抗感を抱いたりする児童が多い。</p> <p>算数においては、特に数と計算に全国を下回っている。「後ろ」や「前」といった言葉の理解が乏しい。時刻に関する生活経験が乏しく、正しく読むことに課題がある。</p>		<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなや漢字の読み、書きに課題があるので指導の重点化を図る。 ・朝学習や家庭学習で読書活動を行い、多くの言葉に触れていく。漢字の学習では、間違えた文字を正しく直し、正しく読める、書けるようにしていく。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業型の朝学習や算数の授業で、既習学習の復習に取り組みながら、算数の言葉の意味などの理解を深めていく。 <p><その他の教科等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳や学級活動を通じて個人尊重について指導する。 		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和5年8月末時点で完了している児童 88.5% (人23/26人中)		
確認テストの実施状況		令和5年8月末時点で完了している児童 80.7% (人21/26人中)		

